

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	名
生徒	名
事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	① 社会人基礎力として、基礎学力の向上を図り、学力を確かなものとするために、新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善を図る。  ② 学習と部活動を両立させる。	① 新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善に取り組む。  ② 学習習慣を確保する。	① 主体的・対話的な深い学びを実現する態度を育成する観点から授業改善を進める。 ・ 年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・ 生徒への授業評価アンケートの実施。 ・ 校外で開催される各種研修会への参加。また、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・ 授業規律についての共通認識を持ち、徹底を図る。 ② 学習時間、特に家庭学習の時間を確保する。 ・ 学習室、図書館を積極的に活用する。 ・ Classiなども利用した自主学習を奨励する。	① 主体的・対話的な展開の授業を取り入れられたか。 ・ 『この授業見てみてシート』が出されたか。 ・ 生徒による授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・ 校外での学びを自らの授業改善に生かされたか。 ② 授業以外の学習時間が増えたか。 ・ 時間の使い方、学習方法に工夫が見られたか。				
2	① 遅刻、交通事故件数ともに減少させることができているが、ゼロではない。TPOを意識した言動や行動ができていない生徒が少なからず存在している。自律心と規範意識を高める指導を進める。  ② 環境整備を進め生徒の活動意欲を喚起するとともに安心・安全な学校づくりに努める。	① 交通ルールの周知徹底と基本的な生活習慣の確立に取り組む。  ② トイレの美化、心身の健康、危機管理に対する意識向上を図る。	① 定期的な立哨指導の他、危険地点での立哨指導の回数を増やす。 ・ 遅刻、交通事故防止の観点から10分前登校を促す。 ・ 教員からの積極的な投げかけによって、生徒がTPOを意識した言動、行動について考え、行動する機会を増やしていく。 ③ 環境委員会でトイレの美化について本校の課題分析をさせ、その解決方策を検討させる。 ・ 生徒保健委員会の活動及び学校保健委員会を通じて本校生徒の課題を検討し、健康に対する意識や関心を高める。 ・ 応急手当講習と防災訓練のつながりを意識する。 ・ 教職員対象の研修を充実させる。	① 遅刻、交通事故件数の推移 ・ 指導部による日常の学校生活での観察や、担任、教科担当、部活動顧問との情報共有。  ② 委員会の運営に生徒が主体的に関わられたか。 ・ 健康についての生徒の意識向上は図られたか。 ・ 教職員、生徒両者の危機管理意識向上に向けて前進できたか。				
3	① 生徒の進路希望先が多岐にわたっているため、計画的・系統的な進路指導を実践し、生徒一人ひとりの自己実現に向けて、適切に指導を行う必要がある。  ② 入試改革に伴い多様化する入試制度についての情報収集を行うとともに、新入試に対応できるような資質能力の養成に努める。	① 個々の進路実現を踏まえ、多面的に指導に当たる。  ② 「学力の3要素」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」に基づいた進路指導を行う。	① スタディサポートや実力診断テストを各学年で実施し、生徒の進路に対する意欲を高める。 ・ classiを活用し、日常の学習活動や実力テスト等の事前学習及び事後学習に役立てる。 ・ 個々の進路希望に応じて、進路補講や面接・小論文指導を行う。 ② SD(探究)の時間を活用し、生徒一人ひとりが自己を振り返り主体的に自らの将来について考え、目標を見据えたポートフォリオの作成を促す。 ・ 分野別説明会や各種ガイダンスを通して、自らの進路実現に必要な情報を積極的に入手し、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。	① 進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・ 実力判定・実力診断テストの結果を進路指導に上手く活かされたか。 ・ 上位私立大学合格者を輩出、4年制大学合格者6割程度、民間就職率100%を実現したか。 ② 年間を通してclassiを有効に活用し、全生徒が積極的にポートフォリオの作成に取り組めたか。				
4	HPや学校説明会などを活用し、本校の魅力を積極的に発信し、生徒募集に繋げる。	開かれた学校づくりを推進する。	・ 年5回の学校説明会の実施、また、校外で開催される高校説明会への参加。 ・ 学校説明会の工夫・改善を図る。 ・ 学校案内の工夫と改善を進め、HPで情報の発信を頻繁に行う。 ・ これまで進めてきた異校種連携を継続して進める。 ・ 保護者、地域住民の学校行事(公開行事に限る)への参加を促す。 ・ 埼玉スタジアムとの連携を強化する。	・ 学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・ 学校説明会の工夫・改善が図られたか。 ・ HPの更新は頻繁に実施できたか。 ・ 異校種連携は進んだか。 ・ 保護者などの学校行事への参加者数が増加したか。 ・ 埼玉スタジアム連携が進化したか。				